

編集後記

(56巻 第2号 2010年2月)

最近テレビ番組を見ていて気になることがある。それはお笑い芸人の出演する番組が異様と思えるほどに多いことである。彼らが主役となるべきバラエティー番組はもちろんのこと、政治・経済を話題とする番組、健康に関する番組、英語などの教養に関する番組などにも、ほとんどお笑い系の出演者が登場している。深刻な社会問題を討論するような報道番組にも登場することもある。何故なのだろう。暗い日本の世相と関わっているのだろうか。

日本人はシリアスな話題をシリアスに考えることがいやになったのかもしれない。確かに、硬い内容だけでは退屈だし楽しくない。しかし、マスメディアが伝えなくてはならない重大かつ真剣なメッセージが、「お笑い」でごまかされてはいないだろうか。私がテレビっ子であることは以前の編集後記でもお伝えした通りであるが、最近の番組構成には時々うんざりさせられる。

(小川 修)